

関わるすべての方に終始、感謝されている姿勢に感銘

先進的ケア・ネットワーク開発研究分野

15S2020 小林 桂子

生井久美子先生へ

貴重な講義、ありがとうございました。

乳がん切除の話が、とても衝撃的でした。

現在の話ではない・・・ということでしたが、過去の話であったとしても、「こんなことが現実にあるんだ」ということに、とても衝撃を受けましたし、知らないって恐ろしいことだとも感じました。

新聞記者さん、というと私の日常からは遠い存在でしたが、今回、このお話しを聞いて、私のような者のために、新聞記事があり、生井先生のような方が、それを取材し発信してくださるからこそ、知ることができるんだ、と本当に心から感謝しました。

素敵な講義、本当にありがとうございました。

紫色のパンツも、とても素敵でした。

最後に・・・

こんなすごいお仕事をされているのに、関わるすべての方に終始、感謝されている姿勢が、とても印象に残っており、感銘を受けました。

その姿勢に、私も初心にかえることができました。

日ごろの自分に反省するばかりです。

ありがとうございました。

【全体を通して考えたこと】

「諦めずに発信し続けること」

このジャーナリズム特論を履修し、様々な業界で活躍されている方々の生のお話を聞き、とても心地よい刺激とエネルギーを得ることができた。これは、このような機会では得られないことだと考えている。

何が一番刺激とエネルギーになったかということ、それは何より「発信力の強さ」である。世の中には、多種多様な情報が無数に発信されているが、その中で人の心に響くものは多くはない。逆に、聞き流されてしまっている情報の方が多いのではないかな。

そんな中で、この授業の教壇にたたれるゲストの先生方は、限られた時間の中で、とてつもないパンチのある情報を独自の視点で発信する。その発信された情報が、受け手に伝わる際に、単なる情報ではなく刺激やエネルギーに変化するのである。

先生方の高い発信力は、「自分の意見を独自の切り口で、想いをもって、かつ分かりやすく伝える」このことが、人々の心に響き、世の中への問題提起と議論の場、しいては社会を変える原動力になるのではないかな、と私は思う。

では、この授業から学んだ「発信力の重要性」を、自分がどのように活かしていくのかということになる。まずは、発信する際、わかりやすさを意識すること。ただ闇雲に無数の情報を発信してもそれは、ただ情報を伝えているだけであり、相手に本当の意味で伝わっているわけではないこと理解する。

相手の心情を察しながら、やりとりをしながら発信していくこと。相手に伝わらないからといい、諦めるのではなく、「諦めないコミュニケーション」「諦めずに発信し続けること」ことこそが重要なのである。小さなことではあるが、これを毎日意識することだけでも、何かが変わるのではないかと信じ、今後のキャリアアップに活かしていきたいと考える。